

# はじめのいっぽ

7月7日（土）の七夕まつりに保護者と一緒に楽しんだすごろくづくりについて、子ども達の活動の様子をご紹介します。



みんなで話し合い、あおむし（アゲハの幼虫）とチョウのすごろくづくりをすることにしました。3・4・5歳児が2グループに分かれて、すごろくのマスにどんなことを書こうか話し合いました。

グループで話し合ったことをみんなの前で発表し、次の日にまた違うものを書いて発表することを繰り返し、マスの中の文章を考えていきました。毎日の振り返りの中で、そういえば、あんなことがあったな・・・と思い出しながらかき加えていきました。

あおむしの幼虫の観察はみんなで経験したことなので、様々なアイデアが浮かびました。



話し合いで出てきた言葉を書いたり紙の周りに絵をかいたりしました。そして、あおむしの成長に合わせて時系列になるように貼り付けていきました。

「これ、〇〇くんが書いたのやで貼ってきて」「ぼくが書いたのや。どうなるか（楽しみだ）な」など、自然と役割分担をしたり、出来上がって遊ぶ時のことを想像したりしながら貼り付けていきました。



文章を貼りつけた後は、「ちょうちょは花が好きだからね」と花を作ったり描いたりしました。また、あおむしは葉っぱも食べていたので葉っぱもつけました。もっと面白くなるように、あおむしトンネルでワープができるようにするなど、みんなで協力して作っていきました。

毎日、活動の終わりにはみんなで振り返り、明日は何をしようか話し合い、少しずつ準備をしていくことで、次の日の活動に目当てを持って参加するようになっていきました。

すごろくは七夕まつりの前には完成し、みんなで遊んでみました。すごろくの目が1や2ばかり出たり、せっかく進んでも戻ったりして一喜一憂しながら遊んでいました。



七夕まつりでは、保護者と一緒にごろくを楽しみました。

### あおむし・ちょうすごろく大公開！！

○くろあおむしがみどりのあおむしになった。3すすむ

※黒い幼虫から緑の幼虫に変化します。

○あおむしがうんちをしてはらぺこになってスタートにもどる

○あおむしがはっぱをたべすぎてあさまでねむってしまった。1かいやすみ

○さわられてあおむしがおこってつのをたてておこる（角がついたお面をかぶって怒った顔をする）

○あおむしがはっぱをたべすぎておもくなっておちてけがをした。1かいやすみ

○あおむしがげりうんちをしてすっきりした。3すすむ

※サナギになる前に下痢うんちをするため。

○あおむしのいとがきれておちる。1もどる

※サナギと壁をつなぐ糸のようなものを子ども達が発見しました。印象に残ったのでしょうか。

○みどりのさなぎがちゃいろになる。もういちどさいころをふれる

※最初、みどりのサナギだったものが、羽化寸前になるとちゃいろになることを発見しました。

○てつぼうにつかまってさなぎのまねをする。

○さなぎがちょうになって4すすむ

○サナギのてんてんもようはなんこある？

○ちょうちょになって10かいじゃんぷする

○おはながなくて1かいやすみ

○おへやで（遊んでいる部屋）はなをみつけてみつをすう

○ちょうちょがおいしいおはなをすってきゅんですをする

○ちょうちょのはねがやぶれてつぎのひとがくるまでうごけない

○ちょうちょのはねがぼろぼろになって2かいやすみ

※全部の幼虫がチョウになれたわけではありません。中には、サナギの間に床に落ちてしまい、羽がうまく広げられなかったチョウもいました。そんなチョウを、子ども達は「砂糖水なら飲めるかな」とえさを心配したり、毎日「がんばれ！！」と励ましたりしていました。

## あおむし・ちょうのすごろくづくりを通して

今回は、アゲハの幼虫の成長をみんなで毎日観察した経験を遊びにつなげることにしました。

自分が経験したことをすごろく用の文章にしていく活動では、子ども達が経験したことを言語化する力がついてきたことを感じました。また、毎日の振り返りの中で目当てを持ちながら活動することを経験できたのではないかと思います。何より、みんなで話し合い、協力しながら一つの遊びを作った経験は、子ども達の力になるのではないかと思います。

もの(生き物など)の持つ魅力が子ども達の意欲の源になり、もっと面白くしたいとイメージを広げ、段取りを決めて実行していく。そして、もっと面白くしたいと振り返り、また試行錯誤しながらチャレンジしようとする。このような展開の中で、子ども達の資質・能力が培われていきます。このような経験は、小学校教育の生活科や総合的な学習の時間につながっていきます。

今後も子ども達の意欲を大切に、遊びのプロセスを大事にしながら保育をしていきたいと思っています。